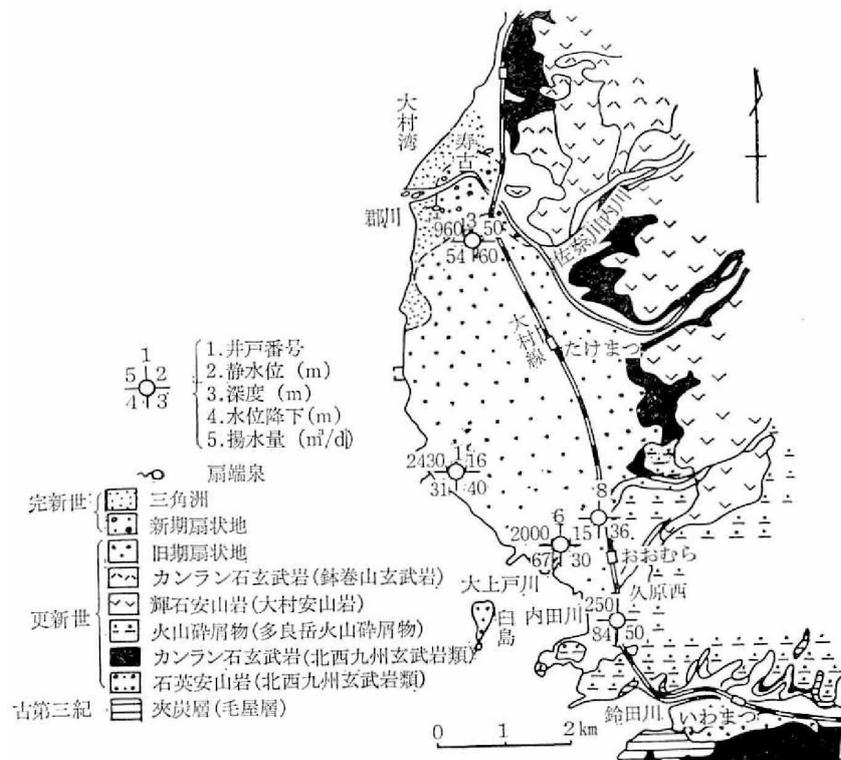


### 地形・地質

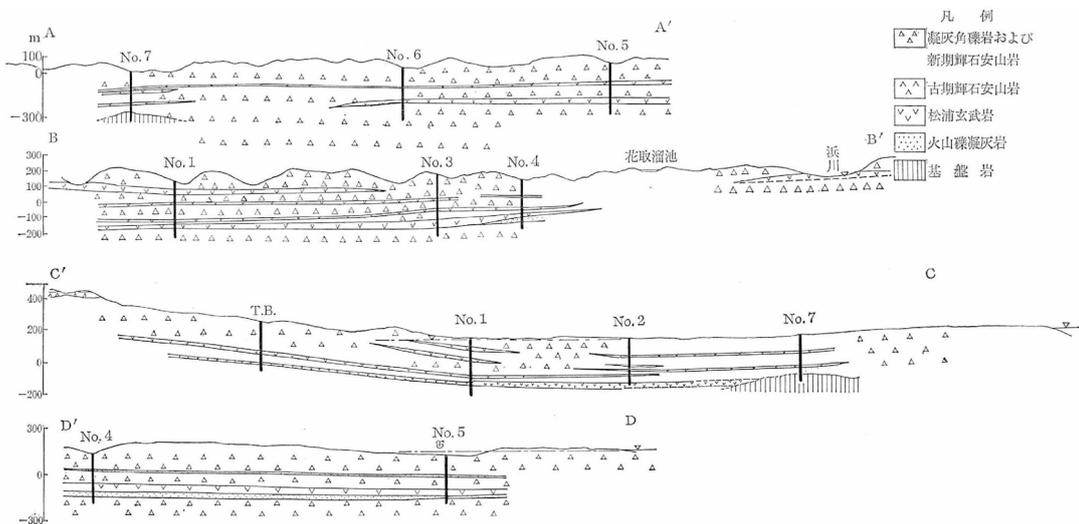
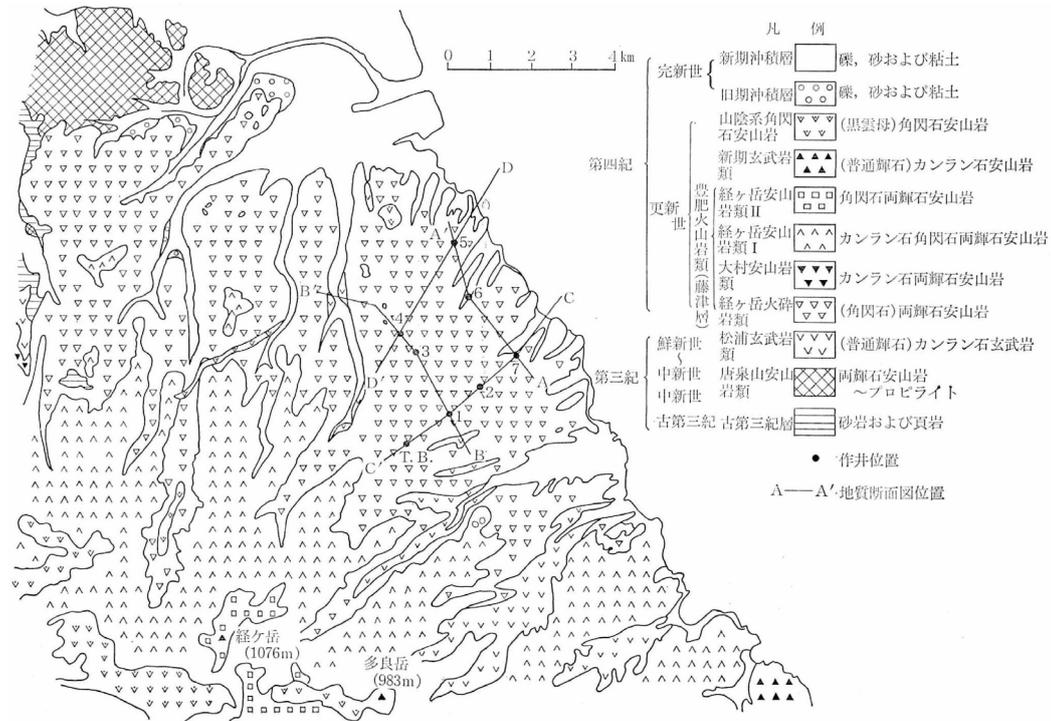
多良岳は東西約 26km, 南北約 30km のやや南北に伸びた楕円形をなす円錐体からなります。多良岳山麓の緩斜面は経ヶ岳火砕岩類からなり、谷底部に部分的に松浦玄武岩類が分布します。経ヶ岳を源とする郡川の河口には群川扇状地が発達します。



群川扇状地の水文地質図

# 地下水

多良岳北東麓の深井戸の帯水層は経ヶ岳火砕岩類および大村安山岩類で、南西麓では経ヶ岳火砕岩類中からの取水が大半を占めます。群川扇状地の中心部では砂礫層が、周辺の山際では砂礫層と溶岩が主要帯水層となっています。



多良岳火山北東麓の地質図と地質断面図

出典 日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

[https://jagh.jp/activities/groundwater\\_database/](https://jagh.jp/activities/groundwater_database/)（日本地下水学会）